

清水寺の本堂でオペラ公演を終え、観客から拍手を受ける出演者ら(23日午後9時、京都市東山区)＝撮影・水澤圭介



世界遺産にオペラ響く 清水寺

お寺で京の夜満喫

京都市東山区の清水寺で23日夜、オペラ公演があった。京の世界文化遺産では初の屋外オペラで、「清水の舞台」の奥にある本堂で歌手とオーケストラが演奏し、約200人がイタリアの軽やかな調べを楽しんだ。

日本芸術振興協会(事務局・東京都)と京都平安振興財団(同・京都市左京区)などが開催。イタリアのボローニャ歌劇場と同協会が共同制作したマルティニ作曲の「音楽の先生」「ドン・キホーテ」が上演された。

同財団などは来年以降も、京都の名所旧跡でオペラ上演を続ける。(松本邦子)

「テ」が上演された。インテルメッゾと呼ばれるオペラの幕あいに行われる作品で、上演時間は各約40分間と短め。「音楽の先生」は流行に敏感な音楽教師と、古いスタイルを崩さない教え子のやりとりが、朗々とした歌声と同歌劇場の管弦楽で表現された。本堂の大きな柱も演出に効果的に使われていた。